

令和6年度 九州中学校体育大会
第49回 九州中学校軟式野球競技大会

特 別 規 定

1 運営に関すること

- (1) ベンチには登録された監督・コーチ・選手以外は入れない。
- (2) 監督は、チームと同一のユニホームで、背番号30をつける。コーチの服装は、チームと同一のユニホーム(背番号29・28のついたもの)か平服(白を基調としたポロシャツとチームと同一の野球帽)とする。(但し、ノックをするものはユニホーム着用のこと)

ユニホームについて、公益財団法人全日本軟式野球連盟規定細則には、「ユニホームの袖の長さは両袖同一で左袖に日本語またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。」と記されている。本大会では、特に規制はしないが、この規定に沿ったものを推奨する。

- (3) 雨天等による大会実施可否の判断及び日程の変更については大会本部で決定する。
- (4) 試合終了は、ホームプレートをはさんだ挨拶で全てとする。また、相手チームのベンチ及び本部席への挨拶は行わず、自チーム応援席への挨拶後、ベンチを速やかに空ける。
- (5) 勝ち残りチームの監督は、球場を出る前に大会本部に連絡し、次の試合日程の確認を行う。
- (6) 応援用の横断幕は、スタンドフェンスのグラウンド側ではなく観客席側につける。
- (7) スタンドや客席にテント等は張らない。
- (8) スタンドでの応援は、基本的に各チームの監督が責任をもって、中学生らしい応援を心がけること。特に鳴り物(太鼓・笛・ペットボトル等)を使用する場合は、自チームの攻撃時のみとする。
- (9) 投手の使用するロジンは、大会本部が準備したものを使用すること。

2 試合前に関すること

- (1) 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定等は試合開始予定時刻の40分前とする。また、同一チームが連続して行う試合のメンバー用紙交換及び攻守決定等は試合開始予定時刻の20分前とする。その他の試合については、前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、メンバー用紙5部(本部・審判・放送・相手チーム・自チーム)を持って所定の場所へ集合する。
- (2) ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- (3) シートノックは試合開始30分前から、後攻側から始め通告時より7分以内とするが、天候等事情により省略・短縮またはサイドノックに変えることもある。ダブルゲームの場合、シートノックは行わない(球場が変わる場合はこの限りではない)。シートノックをしていないチームはベンチ内で待機すること。ただし、先発バッテリーのみ球場内ブルペンの使用は可。またノックは監督・コーチが行う。選手18名以外の補助員は3名認める。但し、ヘルメット着用のこととする。また、シートノック時にはマウンド付近を使用しない。
- (4) 試合前に大会実行委員による用具検査を行う。
- (5) 2試合目以降の先発バッテリーに限り、前試合の4回終了後(オーダー交換後)、球場内のブルペンを使用することができる。服装は試合用ユニホームとする。また、捕手は捕手用具の全てを装着すること。
- (6) 同一チームが連続して試合を行う場合の2試合目の開始時刻は、1試合目終了から40分後を原則とするが、天候によっては本部で判断することもあるので、この限りではない。

3 ルール等に関すること

- (1) ベンチ内のメガホンの使用は1個とする。(使用は監督のみ)
- (2) マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
- (3) 手袋の使用は攻撃・守備に関わらず許可する。但し、色については黒または白の単一色及び両手同一の色とする。手袋とサポーターの一体型のもの使用も認める。
- (4) アピールができるのは、監督または当該プレーヤーとする。
- (5) 事故防止のため、打者・走者・次打者・ランナーズコーチ・バットボーイまたはバットガールは両耳用ヘルメット(SGマーク義務化)を着用する。また捕手はスロートガード付きマスク(SGマーク義務化)・レガーズ・捕手用ヘルメット・プロテクター・ファウルカップを使用する。
- (6) 攻守交代時の代理捕手は、必ず捕手用ヘルメット・スロートガード付きマスク・プロテクター・レガーズを使用する。(尚、ファウルカップの着用が望ましい。)

- (7) 攻守交代は迅速に行い、守備側の投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置く。また、攻撃側の先頭打者とランナーズコーチは速やかに所定の位置につく。
- (8) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
- (9) 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは7球以内とするが、2回以降は3球(球審が状況を考慮する)とする。
- (10) 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
- (11) プレーヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走(打順の前位の者、ただし投手を除く)を認めて試合を進行する。
- (12) 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見る。投手はプレート上でサインを受けるなどスピーディーな試合進行を心がける。ボール回しは試合の進行上禁止することがある。
- (13) 規則5・10(d)原注は、本大会では適用しない。
- (14) 規則5・10(0)関連(2)は、本大会においては、交代した投手が他の守備位置につくことが許される。

〔規則適用上の解釈〕

中学野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員はこれを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

- ① 監督が1試合に投手のところに行ける回数は7イングの試合にあっては3回以内とする。なお、タイブレークとなった場合は1イングに1回行くことができる。
- ② 捕手または内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークとなった場合は1イングに1回行くことができる。
- ③ 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。タイブレークとなった場合は1イングに1回とることができる。
- (15) 塁上の走者及びコーチボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
- (16) 投手の投球数、1日100球、大会期間中350球までとする。(タイブレーク方式も含める。)ただし、試合中規定投球数に達した場合、その打者が攻撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
※ 雨天等の順延のためダブルヘッダーとなった場合も、本規定を適用する。

4 マナー等に関すること

- (1) ユニホーム・頭髪・用具類は中学生らしく、華美にならないように留意すること。
 - ① ユニホームはベルトをきつく締め、試合中に上着が出ないように十分気をつけること。
 - ② 帽子は前髪が見えないように深くかぶること。
- (2) スパイクのチーム内(指導者も含めて)での甲被カラーは、白または黒の一色とし、チーム内での混在を認める。
- (3) ストッキングは選手によってミドルカットやローカット等が混在しないようチームで統一すること。
- (4) 監督・コーチの服装についても選手と同様、十分留意すること。シューズについては、選手と同色のアップシューズまたはスパイクで、開閉会式・試合においても着用すること。
- (5) 参加校はゴミ袋を準備し、責任をもって後かたづけを行い持ち帰ること。弁当の空き箱についても業者に確認し、確実に処分すること。